

臨床研究に関する情報公開について

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内の開示となります。

研究課題名	補聴器長期装用患者の日常生活における主観的な補聴効果に関する検討					
実施予定期間	研究実施許可日～(西暦) 2026年3月31日					
実施診療科	耳鼻咽喉科					
研究の審査等	臨床研究審査委員会審査日		2025年12月18日			
	研究実施承認日		2025年12月18日			
対象となる方	2016年1月から2019年11月までに当院補聴器外来で補聴器装用を開始した60歳以上の方					
対象期間	(西暦) 2016年1月1日～(西暦) 2019年11月30日					
研究責任者	所 属	耳鼻咽喉科	氏 名	山田浩之		
研究の意義	日本では高齢化に伴って主に加齢による難聴者が増加し、今後補聴器の需要が高まることが予想されます。当院補聴器外来では、難聴者の残存する聽力を最大限活用し、生活の質を向上させることを目的に、装用訓練を行っています。補聴器装用開始から最初の3か月間は週1回を目安に頻回に通院してもらい、聽覚を専門とする言語聴覚士によって補聴器の調整を行っています。装用訓練終了後に補聴器購入の判断をしてもらい、購入後は4～6か月に1回程度、再診外来に受診してもらっています。再診外来では医師と言語聴覚士による診察と聴覚管理を行い、日常生活における主観的な補聴効果を確認するために、質問紙を用いて調査しています。当科では2016年より上記の方法で補聴器患者さんの管理を行っており、導入から9年以上が経過しています。患者さんに補聴器の装用を継続してもらうためには、補聴器が日常生活においてどの程度役立ち、どの程度満足を得ているかを知ることが重要ですが、補聴器装用を長期間継続している患者さんの日常生活における補聴効果の経過について調					

	べた研究は少ないです。今回、補聴器を5年以上装用している患者さんを長期装用患者さんとして、5年間の経過が補聴効果へ影響を及ぼしており、特に高齢患者さんに関しては加齢性変化に伴って顕著な影響が出る可能性があると考え、主観的な聞こえ方や生活の変化について質問紙の結果から検討します。
研究の目的	当院補聴器外来患者さんにおける補聴器長期装用患者さんの日常生活における主観的な補聴効果に関して、「きこえについての質問紙2002」を使用して検討することを目的とします。
研究の方法	対象となる方の臨床情報について、診療録を振り返って収集し、集められた情報を分析します。
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を匿名化した上で使用します。(年齢、性別、生年月日等の基本情報、きこえについての質問紙の結果ならびに補聴器全体の満足度)
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定ですが、個人を特定できる情報として公表されることはできません。
個人情報の保護	対象者となる方の情報使用に関しては、個人を特定できる情報を削除して番号(匿名化)を付けた上で研究責任者の責任のもと厳重に管理・保管します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
お問い合わせ	一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院 電話 045-221-8181 (代表) 内線2130 耳鼻咽喉科 山田浩之